

長崎地域留学生交流推進会議

事業名	長崎市民と長崎地域の大学の新人留学生に対する平和学習及びバスハイクの実施			
実施期間	平成24年6月2日、平成24年11月17日			
場 所	長崎大学、長崎市内被爆遺構、資料館、博物館			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	463 名	30 名	54 名	547 名

<実施内容>

(午前)
各大学→長崎大学集合→被爆体験講話→昼食 (午後)
・A班 長崎歴史文化博物館→平和公園・原爆落下中心地→原爆資料館→各大学
・B班 平和公園・原爆落下中心地→原爆資料館→長崎歴史文化博物館→各大学
○平成24年6月2日(土)
4月新規渡日留学生対象
○平成24年11月17日(土)
10月新規渡日留学生対象



説明を受ける様子(平和公園)

長崎県内郭大学等で組織する長崎地域留学生交流推進会議では、平成24年6月2日、11月17日(土)に「長崎平和大学～平和と長崎の歴史を学ぶバスハイク」を開催しました。この長崎平和大学は、長崎県内の大学に4月、10月に入学した留学生を対象に長崎への理解を深めてもらうために同会議及び長崎県、長崎市が主催し、財団法人長崎記念国際交流財団を助成を受けて平成21年度から、年2回(春・秋)実施しているものです。今年度の平和大学には県内大学から計463名の新規渡日留学生らが参加しました。留学生は午前中に長崎大学中部講堂で行われた被爆体験講話に耳を傾けました。6月には深堀譲治さん、11月には松尾幸子さんをお迎えし、写真等を交えながら、ご自身やご家族の被爆当時の経験を立って頂きました。午後からは平和案内人(ボランティアガイド)の説明を受けながら平和公園、原爆落下中心地訪の被爆遺構を見学し、平和への思いを新たにしました。その後、留学生は長崎原爆資料館、長崎歴史文化博物館を見学し、留学地長崎への理解を深めました。参加した留学生からは、長崎の歴史と文化が以前より理解できた、命の尊さがよくわかった等、多くの意見が寄せられました。

<参加者からのコメント>

曹 力萍さん(中国)/CAO LIPING

2012年11月17日、私は中国の留学生として、「第8回長崎平和大学～平和と長崎の歴史を学ぶバスハイク～」という活動に参加しました。午前中は67年前に長崎で被爆した講話者の被爆体験講話に耳を傾け、午後は原爆資料館と平和公園等の被爆遺構、長崎歴史文化博物館を見学しました。被爆体験講話では、写真などを見ながらその悲惨な体験を聞きました。私が想像していたよりも悲惨な状況で、私は非常に悲しかったです。亡くなったほとんどの人は普通の人でした。戦争というものは世界中で一番最悪なものだとしみじみと感じました。戦争のせいで国家の経済はひどく損失されて、家族は幸せに一緒に生活できなくなりました。今の時代、平和と社会の発展は世界の主題だと思います。世界平和があるからこそ、今の幸せな生活があると思います。世界平和を維持するのは、これから社会を担っていく私たち若者の責任だと固く信じます。もう二度と悲惨な戦争が起きないように、心から願っています。

申 正兒さん(韓国)/SHIN JEONGA

2012年6月2日、第7回長崎平和大学に参加しました。午前中は長崎大学の講堂で行われた原爆被爆者の体験講話を聴きました。本などで読んで知ってはいましたが、実際に聞いてみると予想以上に悲惨で残酷なことが67年前にこの長崎で起こったことが分かりました。身ぶるいを覚えるほど戦争の悲惨さを知りました。午後からは長崎市内にある原爆遺構をボランティアの方々に説明してもらいながら見学し、原爆資料館、長崎歴史文化博物館で長崎の歴史を学びました。私たち留学生にとって、留学地長崎を知るとても良い機会だったと思います。私たちにとって、国と国の交流によってお互いに平和と友好を伝えていくのはとても大切なことだと思いました。今でも世界中で戦争がありますが、戦争について私たちはもっと勉強し、二度と戦争が起きないように各国の人々と一緒に努力して行くべきだと思います。講話者である深堀さんの「周囲の人の痛みを分かろうとする、そんな小さな積み重ねを世界に広げてほしい」というメッセージを私たち若い世代が受け継ぎ、広めていきたいと思っています。